

ユビキタスワークを推進する通信技術調査専門委員会
設置趣意書

通信技術委員会

1. 目的

パンデミックに耐性を持つ生産活動および社会生活を支える無線・有線通信技術および同技術を用いるニューノーマル時代のユビキタスプラットフォーム実現に向けた技術課題の抽出を活動の目的とする。

2. 背景および内外機関における調査活動

令和元年(2019年)に発生が確認された新型コロナウイルス(COVID-19)は極めて深刻なパンデミックを引き起こし、令和二年(2020年)に入り全世界で生産活動のみならず社会生活に大きなダメージを与え、今もその状況は続いている。感染拡大を抑えるために、世界中の国々で人と人との接触を避ける対策が取られ、生産活動と社会生活の維持のため通信技術をフル活用したいわゆる「テレスタイル」の新たな活動様式が極めて重要な社会課題となっている。この課題を克服するために、インターネットを基盤とした無線・有線技術を活用したコミュニケーションツールが種々開発され、「デリバリーサービス」、「在宅勤務」、「ビデオコミュニケーション」等の種々の試みがなされている。このような種々の取り組みは新型コロナウイルスの拡大を抑えつつ生産活動と社会生活を持続可能とする「ニューノーマル」の実現を目指し全世界で施行されている。

本調査専門委員会では、ニューノーマル時代の生産活動および社会生活の具体的な形態を明らかにすべく、「テレスタイル」の中核となる無線・有線技術の現状把握と将来展望について、構成委員の研究・開発活動実績をベースとする調査結果の報告と新規提言を各種オンラインコミュニケーションツールを用いて行う。また、親委員会である通信技術委員会にパンデミックに対して多くの社会課題を共有する日本を初めとするアジア諸国の研究者・技術者を対象としたオンライン研究会を企画・提案し、発表および技術討論を通じてグローバル化されたニューノーマル時代の生産活動および社会生活についても具体的な調査と提言を行う。

本調査専門委員会の構成委員は、電子デバイス、無線・有線通信、通信ネットワーク、計測システム、ブロックチェーン等の分野で、広く国内外に研究・開発・マーケティング・営業の経験を持ち且つアジア地域を中心に啓蒙活動・情報発信を続けている。本委員会の成果は、限られた専門技術分野あるいは産業・市場を対象とする他学会あるいは他協会に対し基礎技術から応用技術ひいてはシステム運用まで対象とする電気学会において、広く社会に浸透し日本の各種産業発展に貢献すると期待される。

3. 調査検討事項

5G 通信技術、IoT 通信技術、通信デバイス、通信アプリケーション、サイバー会議システム、Virtual Reality、通信セキュリティ、ブロックチェーン、サービスロボットの各分野に亘り、委員による調査・報告活動と委員会外講師を招く勉強会を実施する。

4. 予想される効果

ニューノーマル時代のコミュニケーションツール・電子会議システム・流通システム・決済システムの予測と眺望、およびそれらを実現する必須技術の抽出と課題解決にむけた提言を報告書にまとめる。更に、提言実現の一例として、通信技術委員会にユビキタスワークを支援するコミュニケーションツールを活用した国内外に参加を求めるオンライン通信研究会を企画・提案する。

5. 調査期間

令和三年(2021年)6月～令和六年(2024年)5月

7. 活動予定
委員会 4回／年 幹事会 2回／年

8. 報告形態 (調査専門委員会は必須)
技術報告をもって成果報告とする